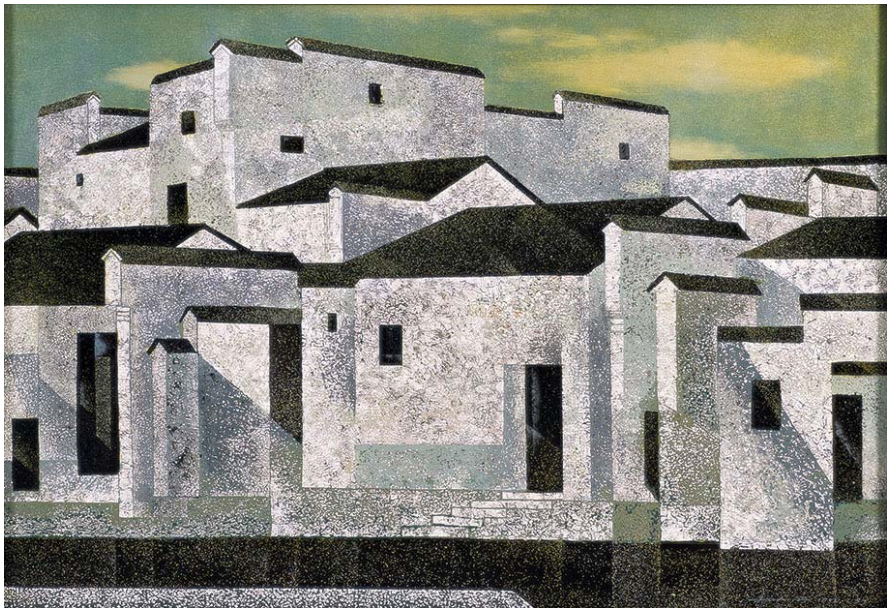
会館だより



2019年　1月号

No. 355

公益財団法人　日中友好会館

目　次

年 頭 の ご 挨 拶

・(公財) 日中友好会館　理事長　荒井克之
・(公財) 日中友好会館　中国代表理事　鄭祥林

行 事 案 内

《日中友好会館美術館》

・主催展「漆×絵画のハーモニー　蓮福美術館蔵中国漆画展」

《日中友好後楽会》

・新春談話会
・新規会員ご紹介

お 知 ら せ

・日中友好会館事務局　休日

活 動 記 録

・主催・海外展「第二回日本工芸展 in 景徳鎮　九谷焼 2018」及び上海巡回展を終えて
・後楽会会員総会（もみじの会）
・後楽寮生が秋の行事に参加
・後楽寮生が藤沢市で視察体験学習に参加
・茶道体験の感想
・「若き津波防災大使」一行 293 名が来日
・「JENESYS2018」第二十三回中国教育関係者代表団、中国青年代表団が来日

留 学 生 通 信

・「敦煌と後楽寮の不思議なご縁」
東京藝術大学美術学部東洋美術史研究室（外国人客員研究員）武 瓊芳
・「日本の街づくりから学びたい」　東京大学大学院博士課程（工学系研究科都市工学専攻）周 詳

会館行事と人の動き

表　紙

「皖南(安徽省南部)の家」　　漆画　　作者：程向君

主催展「漆×絵画のハーモニー　蓮福美術館蔵中国漆画展」より
安徽省南部の建築の特徴を強調し、再構築し描かれています。
キュビスムの現代性と東洋の美学の魅力、そしてリズム感を兼ね備えた作品です。

年 頭 の ご 挨 拶

(公財)日中友好会館　理事長　荒井克之

明けましておめでとうございます。

昨 2018 年の年頭挨拶で、私は「日本と中国が将来に向け、それぞれの国民が理想とする国づくりに切磋琢磨しつつ互恵の精神を発揮し、互いに協力できる領域が広がり、相互理解がますます深化し、良き日中関係が更に強固なものになって世界に貢献できることを望んでいます」という「期待」を述べていました。

その 2018 年には、中国国務院総理として李克強首相が 8 年ぶりの日本公式訪問、日本国内閣総理大臣として安倍首相が約 7 年ぶりの訪中を成功裡に実施できたのは、日中双方が好機を捉える努力を重ねたことが奏功した結果だと言えます。「期待」への始めの一歩が踏み出されたと思っています。

5 月の李克強首相訪日では日中関係は回復基調に入ったことが首相本人の口から語られ、10 月の安倍首相訪中ではハイレベル往来、経済分野では第三国民間経済協力、ODA に代わる新たな次元の日中協力、海洋・安全保障分野における具体的な進展の重要性などの認識の一致があったと伝えられています。また、安倍・李両首相は、両国国民の相互信頼・理解を醸成する観点から、双方向の国民交流、特に若い世代や地方都市間の交流を更に拡大する必要があるとの認識でも一致を見ました。国民交流の分野では 2019 年を「日中青少年交流推進年」と銘打ち、日中両国合わせて、今後 5 年間で 3 万人の青少年交流を進めることで一致しました。日本・中国両政府間で青少年交流の強化に関する覚書が結ばれたことはおおいに歓迎すべき成果だと思います。(外務省 HP「安倍総理の訪中」より)

昨年 10 月 28 日発行の中国雑誌『VISTA 看天下』には、安倍首相の外交における成果は歴代の首相と比べ勝るとも劣らない(较历任首相,安倍的外交成绩有过之无不及)との記述がみられ、在任 6 年間で推進してきた対米、オーストラリア、東南アジア、ロシア外交を評価しつつ、日中関係も次第に良い方向に進んでいる(中日关系也逐渐趋好)との認識が示されていました。

ここまで、昨年のことを書きすぎた嫌いはありますが、何事も旧年があるから新年があるものです。2019 年は、日中友好会館は引き続き今まで青少年交流事業で蓄積してきたさまざまな経験を活かし、その内容をより一層グレードアップさせ、交流事業に参加した日中青少年が将来にわたり、相互理解や互恵の精神を発揮できるよう、ほかの公益事業の充実とともに推進していきたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

年 頭 の ご 挨 拶

（公財）日中友好会館　中国代表理事　鄭祥林

みなさま、新年あけましておめでとうございます。

新しい年において、引き続き日中友好会館の各事業に対するご支援のほどよろしくお願いします。

常勤理事として、あっという間に東京勤務三年が過ぎました。昨年から正常な軌道に戻った両国関係をこの目で見守っていた者として心より喜んでいます。特に嬉しく思うのは、中国からの来日観光客数がまた記録を更新したことです。旅に出てきた多くの中国の人々が日本の各地を歩き、現地の人や自然と文化に触れて、隣国日本に対する理解がこれまでにないほど深まりました。かれらがネットで観光中のことをライブしたり、いろんなことを感想にして発信したりしたことをわたしは興味深く見ています。旅行すると同時に、他国の優れたところと自分の不十分な点が発見されたことは、旅行者にとっては良い勉強のチャンスとなり、自身の進歩にもなります。

一方、日本で暮らして、現地の人々が現在の中国をどう理解しているのかが気になります。勿論、中国の変化、国際情勢の推移、国情の相違点等々の複雑なる要素が重なっているため、人それぞれ見方があるのは当然です。今日、中国人の日本に対する理解が深まったと同様に、これから、両国間のさらなる経済交流、人的往来、多種多様なコミュニケーションが多くなると予想されます。お互いに行き来することで、相互理解が深まり、誤解を解くことができるものと信じます。

中日両国が協力すれば我々自身の利益になるばかりでなく、地域や世界の平和と発展にも繋がります。ですが、相互間の真の関係改善、感情育成、信頼醸成は容易なことではありません。多少時間はかかるでしょうが、“水至りて渠なる”。その意味において、我々会館のかかわる事業は大変有意義な仕事ばかりです。新年を迎えて、皆さんとともに中日民間交流事業に邁進して参りたいと思います。

● 行 事 案 内 ●

日中友好会館美術館

◆主催展「漆（うるし）×絵画のハーモニー－蓮福美術館蔵中国漆画（しつが）展」

会　期：2019 年 1 月 24 日㈭～2 月 19 日㈫
　　＊日曜休館

時　間：10:00～17:00
　　＊初日は 15:00 より開幕式

主　催：(公財)日中友好会館、
　　蓮福文化伝播(厦門)有限公司

協　力：(株)アジア太平洋観光社

後　援：中国駐日大使館、中国文化センター、(公社)日中友好協会、日本国際貿易促進協会、(一財)日本中国文化交流協会、日中友好議員連盟、(一財)日中経済協会、日本福建経済文化促進会、(一社)黄檗文化促進会、中国民間文芸家協会漆芸委員会、(株)OHS-JAPAN

入場料：無料

＊開催概要は変更の可能性もございます。
　お出掛けの前に会館 HP をご確認下さい。

漆画（しつが）は 1984 年に確立した比較的新しい絵画ジャンルです。器物などを飾る絵付けを主とする工芸としての日本の漆絵（うるしえ）と異なり、金銀錫の粉、貝殻、卵殻、彩漆などの素材を用い、漆芸技法を自由に応用して絵画的な表現を追求したものです。その制作には、漆工芸の技法と画力の両方が必要とされます。この二つが効果的に用いられたとき、絵具では表せない独特かつ重厚な質感の芸術―「漆×絵画のハーモニー」が生まれます。

孫暁東「女の子」

本展では蓮福美術館(福建省厦門市)の漆画コレクションの中から、中国国内の美術展受賞作家の作品を中心に、今まさに活躍している作家の作品約 40 点を展示します。本展を通して、目覚しく発展している中国漆画の魅力をお伝えします。

なお、2 月 5 日㈫(春節＝旧正月）～9 日㈯の 5 日間にご来館頂いた方には、抽選で中国グッズをプレゼントします。ご来場をお待ちしております。

林景春
「退屈でしょうがない」

◆美術館イベント

①オープニングイベント
日時：1 月 24 日㈭　15:00～
開幕式と中国著名漆画家によるギャラリートークを行います。参加無料、申込不要。

②漆絵体験教室
日時：1 月 25 日㈮　14:00～（約 2 時間）
講師：周榕清（漆画家）
参加費：2,000 円/人（道具貸出・材料費込）
事前申込制（定員 12 名、小学生以上対象）
粉蒔等の技法による装飾体験。できあがったオリジナル小皿はお持ち帰りできます。

③ミュージアムコンサート
日時：2 月 7 日㈭　14:00～（約 1 時間）
出演：高欲生（古琴奏者）
参加無料。
事前申込制（席数 50、立ち見は申込不要）
約 3 千年の歴史がある中国の伝統楽器古琴による演奏をお楽しみください。

④中国茶芸

日時 :2 月 14 日㈭　14:00～（約 1 時間半）

講師：鄭燕（中国茶芸師）

参加費：500 円/人（材料費込）

事前申込制（席数 30）

奥深い中国茶の紹介と茶芸披露のほかに、中国茶三種の飲み比べも行います。品茗杯（湯のみ）をプレゼント。

≪各イベントのお申込み方法≫

下記、日中友好会館へお電話、E-mail のいずれかにて、参加を希望されるイベント名・お名前・電話番号を添えてお申込みください。

【申込み・問合せ】

文化事業部（平日 9:00～17:00）

電話：03-3815-5085

E-mail: bunka@jcfc.or.jp

日中友好後楽会

◆新春談話会

日　時：1 月 17 日㈭
　　17:30 より（受付 17:10～）

会　場：レストラン「豫園」
　　（日中友好会館地下 1 階）

参加費：2,000 円（会員）
　　＊非会員の方はお問い合せ下さい。

2019 年最初の後楽会行事は、毎年恒例の新年会です。会員、寮生が多く集まって賑やかに立食パーティを行いたいと思います（講義はありません）。この機会に 2019 年の行事へのご希望、ご意見などもお聞かせ下さい。

◆新規会員ご紹介

2019 年 1 月ご入会

江田　五月さん　　都筑　石根さん

荻野　眞さん

【申込み・問合せ】

後楽会事務局　緒方、堀口

電話：03-3811-5305　FAX：03-3811-5263

E-mail：kourakukai@jcfc.or.jp

● お 知 ら せ ●

◆日中友好会館事務局　休日

年始：1 月 4 日㈮

春節：2 月 4 日㈪ 、2 月 5 日㈫

例年、年始は 1 月 4 日より業務を開始しておりますが、2019 年は 1 月 4 日㈮を休業し、1 月 7 日㈪より業務を開始いたします。

また、2019 年より中国春節（旧正月）、及びその前日の 2 日間を休日といたします。2019 年は 2 月 4 日㈪、及び 2 月 5 日㈫の 2 日間を休日といたします。

（注：上記 3 日間は、日中友好会館ビル全体の休館ではございません。）

＊日中友好会館美術館は、主催展「漆×絵画のハーモニー　蓮福美術館蔵中国漆画展」会期中につき、2 月 4 日㈪・5 日㈫も開館しております。

● 活 動 記 録 ●

◆主催･海外展「第二回日本工芸展 in景徳鎮 九谷焼2018」及び上海巡回展を終えて

1 年半に亘る長い準備期間を経て、2018 年 10 月 10 日、景徳鎮にある中国陶磁博物館にて「第二回日本工芸展 in 景徳鎮 九谷焼 2018」が開幕しました。当会館からは宮本会長代行、荒井理事長が訪中。景徳鎮からは鐘志生党書記と梅亦市長が揃って参加。250 名超の来賓をお迎えし華やかなスタートとなりました。

ポスター2 種（左は若手作家、右は巨匠作家の作品がそれぞれ掲載されています）

開幕式・テープカット（景徳鎮）

文化事業部では、2 年前より日本の文化を中国で紹介する海外展にも力を入れています。第一回目は上海で富山県の高岡漆器を紹介し中国の皆さまに好評をいただきました。第二回目となる本展は、石川県能美市を主要産地とする経済産業大臣指定伝統的工芸品“九谷焼”に焦点を当て、人間国宝を含む巨匠作家 28 名、将来が期待される若手作家 20 名による全 150 作品を展示しました。

巨匠・若手の作品を一堂に集めた海外展の開催は産地としても初の試みで、開幕式に駆けつけた石川県能美市の井出敏朗市長をはじめとする九谷焼産地の関係者は、大勢の来場者が熱心に鑑賞する姿に感無量の様子でした。

また、開幕及び閉幕時には九谷焼作家が訪中し、景徳鎮で陶磁器を学ぶ大学生 200 名を招いたシンポジウム講演会や、展覧会場で九谷焼の命といわれる絵付けの実演を複数回実施するなど、イベントを通じて文化交流を深めることが出来ました。

景徳鎮での開催は 11 月 11 日に閉幕。会期 29 日間で 176,182 人が来場。うち、学生が全来場者の約 14%（23,741 人）を占め、次世代を担う若者の日本文化への関心の高さがうかがわれる結果となりました。

本展は景徳鎮での展覧会に続き、上海へ巡回。2018 年 11 月 15 日から 25 日まで上海工芸美術博物館にて「第二回日本工芸展 in 中国 九谷焼 2018～上海巡回展～」を開催しました。開幕式には、会館から佐藤常務理事が訪中。在上海日本国総領事館の片山和之総領事をはじめ来賓、関係者およそ 200 名が参集しました。上海巡回展は 10 日間の短い会期でしたが、約 1,500 名の来場者がありました。

熱心に作品に見入る来場者

景徳鎮展、上海巡回展を通じて 13 名の九谷焼若手作家が訪中。ほぼ全員が初の訪中でし

たが、「中国に抱いていたイメージが一転、中国が大好きになった」「再び中国で展覧会をしたい」「創作のインスピレーションを得る意義深い訪問となった」といった声を聞くことが出来、主催者としても大きな収穫でした。

なお、本展に先立ち 2018 年 7 月には日中友好会館美術館で「宮廷のコバルトブルー 景徳鎮明清官窯復刻展」を開催し、景徳鎮磁器の華やかな世界観を日本の皆様にお楽しみいただきました。

九谷焼若手作家による絵付け実演（上海）

公益財団法人東芝国際交流財団をはじめ日中の多くの皆様のご協力のもと、日中平和友好条約締結 40 周年の記念すべき節目の年に、日中の陶磁器交流史に残る相互交流展を実現することが出来ました。この場をお借りして、関係するすべての皆様、ご来場いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

（文化事業部）

◆後楽会会員総会（もみじの会）

第 28 回目となる今回の会員総会は 11 月 28 日㈬の夜、日中友好会館内レストラン「豫園」にて、後楽会会員、後楽寮寮生代表、会館役職員、約 40 名が集まり行われました。

今年は小石川後楽園内で紅葉を愛でることは叶いませんでしたが、荒井理事長が開会挨拶にて、孫文の辛亥革命に尽力した山田良政の偉業を称えた記念碑がある青森県弘前市貞昌寺で拾った紅葉の葉を持参し、真赤な紅葉はまるで日中友好にかける情熱の色のようだと紹介し、その言葉を皮切りに、盛んに交流が行われ賑やかな会となりました。

開会挨拶をする荒井理事長（右）

（後楽会事務局）

◆後楽寮生が秋の行事に参加

11 月は、後楽寮寮生委員会主催の二つの行事が行われました。10 日㈯は「2018 後楽寮体育大会」、18 日㈰は「紅葉狩り」です。後楽寮 4 階で開催した後楽寮体育大会には約 50 名の寮生が参加し、卓球・ビリヤードなどの体育種目を通じたスポーツ交流が行われました。体を動かしながら、寮生同士の親睦が深まったようです。鄭中国代表理事も卓球の混合ダブルスなどの試合に参加しました。

卓球の試合の様子

また 18 日㈰は、後楽寮生約 100 名が新宿御苑を訪れ、色づき始めた紅葉を鑑賞しました。寮生たちは撮影をしたり、寮生委員会が企画したゲームをして楽しみました。また 12 月か

らの新メンバーによる寮生委員会発足に先立ち、委員 12 名がそれぞれの自己紹介と担当業務の発表等を行いました。新入寮生にも顔を覚えてもらえたと思います。寮生同士も情報交換をしました。

後楽寮伝統の旗を持って記念撮影

留学生事業部としては、このような機会を通じてたくさんの友人を作り、今後の寮生活をさらに充実したものにしてほしいと思います。　（留学生事業部）

◆後楽寮生が藤沢市で視察体験学習に参加

11 月 19 日(月)に藤沢市観光協会のご招待で後楽寮生 16 名と武田顧問、留学生事業部職員が神奈川県藤沢市を訪問しました。この活動は、見学と体験を通じて藤沢市の魅力を SNS 等で発信するというコンセプトで 2013 年から毎年行われています。

聶耳記念碑の前で
聶耳記念碑保存会、湘南日中友好協会の皆さんと

寮生たちは、聶耳記念碑視察、そば打ちや寿司作りの体験、江の島島内と北部環境事業所・リサイクルプラザの見学と充実した一日を過ごしました。以下は参加した寮生の感想です。

・聶耳は国歌の作曲者であることだけ知っていました。今回初めて聶耳の記念碑が藤沢市にあることを知り、毎年 7 月 17 日には聶耳碑前祭を盛大に行っているそうです。当日は湘南日中友好協会の方たちが私たちを待っていてくれて、藤沢市民の聶耳を慕う気持ちにとても感動しました。

・私は雲南省昆明市出身です。聶耳記念碑に献花をしました。江の島のサムエルコッキング園内にある、姉妹・友好都市庭園の石や建材が職人と共に雲南省から来たというのを聞き、感激と共に藤沢市に愛着がわきました。

・江島神社では銭洗い池でお金を洗い、手水のやり方を学びました。僕は御朱印集めをしているので、思いがけず御朱印をもらうことができてラッキーでした。

初めての手水に挑戦

・生まれて初めて日本のそばを打ちました。先生の丁寧な指導で少し太かったけど、おいしく食べられました。蕎麦湯もおいしかったです。

・リサイクルプラザでは分別されていないビンをベテラン職員は 1 分間で 50 個近く選別するそうです。ゴミ分別について勉強できましたし、今後は気をつけたいです。藤沢

市は（東京五輪の）セーリング会場になるそうですが、2020 年のオリンピックメダルを廃棄済小型家電から作ると聞いて驚きました。

・さつまやでは大将が大きな声で分かりやすく、女将さんがとても流暢な英語で作り方を説明してくれました。自分で握った寿司は少し形が悪かったけど、今まで食べた寿司で一番おいしかったです。

今回も多くの寮生をご招待いただきました。また通訳ボランティアの方々にもご協力いただき、改めて藤沢市観光協会をはじめ関係者の皆様に御礼申し上げます。（留学生事業部）

◆茶道体験の感想（寮生参加者）

11 月 25 日㈰に、日中友好会館 村上立躬元顧問の御夫人 村上祺子様のおかげで、寮生 10 人たちは大田区裏千家懇親茶会に参加するチャンスに恵まれました。

私は大学時代に、中国天津にある清風庵で一年くらい裏千家茶道を稽古しました。今回、もう一度お客として参加できるのは嬉しいですし、懐かしいです。学んだ茶道知識を実践できることにもとても興奮していました。

今回のお茶会は濃茶席、薄茶席、香煎席と点心席からなっています。やさしい亭主は留学生たちに一層茶道文化を理解できるよう、三人につき一人の先生を付けて指導してくれました。私たちのそばで模範を示し、茶道のマナーなどを熱心に説明してくださいました。

その中で一番印象深いのは濃茶席です。以前の稽古ではほとんど薄茶を中心に展開されましたから、濃茶に対する実感がそれほど強くありませんでした。広間で綺麗な金箔をつけた生菓子を食べて、三人で一服の濃茶を味わいました。お茶の味は想像より苦かったですが、お菓子の甘さとぴったり融合して、おいしかったです。お茶を飲んだ後で、亭主が茶室の飾りと茶道具を一つ一つ丁寧に紹介してくださいました。それは全部普段目にすることのない貴重品で、本当に見事でした。

後楽寮生と大田区裏千家の皆さん

日本茶道で「一期一会」とよく言います。確かに、これほど楽しい雰囲気で 10 人の中国留学生と日本茶道同好の士たちは一緒にお茶を飲んだり、茶文化を通じて交流したり、素晴らしい体験となりました。

最後に、もう一度亭主に感謝したいです。今回の忘れられない記憶を一生大切したいと思います。　（後楽寮生　郄汀潔）

◆「若き津波防災大使」一行 293 名が来日、和歌山で地震･津波の防災･減災を学ぶ

2018 年 10 月 27 日から 11 月 2 日までの 7 日間、世界 47 カ国・地域の高校生と引率で構成される「若き津波防災大使」一行 293 名（高校生 244 名、引率 49 名）が来日した。中国は山東省から青島市即墨区萃英中学の 12 名が参加した。

訪日団は、和歌山県で開催された「世界津波の日」2018 高校生サミット in 和歌山への参加や、「稲むらの火祭り」、スタディツアーへの参加を通じて、日本の津波の歴史や地震・津波への備え等の防災・減災の取り組みについて学んだほか、和歌山県でのさまざま

なプログラムや地域の人々との交流を通じて、日本の豊かな自然、文化、歴史に触れ、日本と日本人の魅力についても理解を深めた。

「稲むらの火祭り」、スタディツアーに参加

滞在中、一行は、「世界津波の日」の起源となった濱口梧陵の功績をたたえ、防災の精神を後世に伝える「稲むらの火祭り」に参加したほか､2 日間のスタディツアーに参加した。防災スクールでは、地元の高校生と共に走行中の特急列車から降りて高台へ避難する訓練や、近隣の園児との合同避難訓練に参加し、いざという時各々がどのような行動を取るべきかを学んだ。また、訪問した県立高校での文化交流やクラス交流を通じて互いの友情を育み、地元高校生の案内で名所旧跡等を参観して、和歌山の豊かな自然や文化、歴史にも触れることができた。

スタディツアー 防災スクール「鉄學」
特急列車から降り、高台へ走って避難

「世界津波の日」2018 高校生サミット in 和歌山に参加

10 月 31 日～11 月 1 日の二日間にわたり開催された「世界津波の日」2018 高校生サミット in 和歌山には、日本の高校生 134 名も加わり、世界 48 カ国・地域の高校生 378 名が参加した。このサミットは、2015 年 12 月に国連で制定された「世界津波の日」(11 月 5 日)の啓発イベントの一環として開催されるもので今回が第 3 回目となる。主催者である和歌山県の仁坂吉伸知事、広川町の西岡利記町長、共催の国連国際防災戦略事務局、後援する内閣府、文部科学省、国土交通省の代表者らが挨拶をしたほか、安倍晋三総理からビデオメッセージも寄せられた。

「世界津波の日」2018 高校生サミット in 和歌山
分科会でディスカッション

初日は、海外高校生がサミットに先立ち参加したスタディツアーを報告、日本と海外の高校生が共同でウバメガシの記念植樹を行い、夜には外務省主催のレセプションに参加してサミット参加の意気込み等を語り合った。二日にわたり行われた分科会では、自国の取り組みや今後の課題等について発表し、各国高校生が「自然災害にどうやって立ち向かうのか」という世界共通の課題について真剣に議論した。二日目は、東京大学大学院情報学環の片田敏孝特任教授による津波防災講演会に続いて総会・閉会式が行われ、分科会で話し合った成果を発表し、最後にサミットの成果として「稲むらの火継承宣言」を発表した。

今回来日した 47 カ国・地域の参加高校生たちが本プログラムを通じて学んだそれぞれの地域での防災の知見と地震津波等災害の脅威を後世へ語り継ぎ、将来、各国で防災・減災分野におけるリーダーとして活躍し、国境を越えて手を取り合い協力していくことを心より期待する。

本団の受け入れにご協力くださった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。　　(総合交流部)

◆「JENESYS2018」第二十三回中国教育関係者代表団、中国青年代表団が来日

2018 年 11 月 12 日から 11 月 16 日までの 5 日間、第二十三回中国教育関係者代表団一行 60 名(団長＝王占起 中国日本友好協会 副秘書長)、及び中国青年代表団(団長＝関湧 中国日本友好協会 理事)60 名が来日した。

中国教育関係者代表団は、北京市・重慶市・貴州省・遼寧省の小・中・高等学校の教員で構成され、東京・大阪・京都にて各種教育機関などを訪問・視察し、日本の教育関係者と交流した。

中国青年代表団は、北京市・雲南省の青年公務員と農村青年幹部で構成され、東京・長崎にて各分野に関連する訪問・視察を行った。

両団ともに外務省が推進する「JENESYS2018」の一環として招聘し、さまざまなプログラムを通し、包括的な対日理解を深めた。

＜中国教育関係者代表団＞
日本の教育制度、学校現場の取り組みを学ぶ

東京では、「新しい学習指導要領の考え方」をテーマに文部科学省による講義を受け、学校教育制度や学習指導要領を中心とした教育改革等、現在の日本の教育概況全般への理解を深めた。また、大阪での大阪府教育庁との懇談会では、地域の状況にあわせた教育の取り組みを知り、活発に意見交換をした。

生徒と交流（豊島区立西池袋中学校）

さらに 2 グループに分かれ、東京で小学校と中学校、大阪で高校を訪問し、授業・校内見学や教職員との懇談等も行った。

新宿区立落合第一小学校では、道徳の授業や外遊びの時間などで元気にのびのびと活動する生徒に感銘を受け、生徒の嗜好や栄養・健康面に配慮された給食を体験した。豊島区立西池袋中学校では、普段の授業だけでなく、特別支援学級での手作り感あふれる温かい授業を目にし、生徒の状況に応じた丁寧な指導方法について、考えさせられた。

大阪府立北野高等学校では、豊富な選択授業のほか、進学校にも関わらず盛んな部活動の様子を見学し、文武両道の重要性を認識した。大阪府立今宮工科高等学校では、専門性の高い授業と、それに取り組む生徒達の専門知識・技術習得への高い意欲を感じることができた。

そのほか一行は、東京では皇居二重橋・TEPIA 先端技術館、京都では世界遺産の二条城や金閣寺を参観し、日本の文化・歴史・科学技術に親しみ、日本の魅力に触れることができた。

団員からは、「日本人の礼儀正しさやマナーの良さ、道徳心の高さは、幼い頃から継続的に、学校教育で育まれていることがよく分かった」「日本は特別支援教育にも力を入れており、生徒の興味を惹きつけるために工夫された授業は参考になった」「生徒の興味・関心に応じて選択できる授業が多く、生徒の長所・個性を伸ばすことができる。勉強だけでなく、部活動によって生徒の自律性も向上させている」「高校でありながら、大学の工学部のように内容が充実しており、生徒達に職人のようなプロ意識を感じた」など思い思いの感想が聞かれた。

＜中国青年代表団＞
長崎県の産業・農業振興に関する取り組みを学ぶ

公務員分団は、長崎県産業労働部から説明を受け、県の産業の現状と課題や、造船業に次ぐ新たな基幹産業の育成に向けた各種取り組みについて学んだ。その後、汚水処理施設向けの水処理機械等の設計・製作等を行う協和機電工業㈱で、環境保全への取り組み、高品質な製品を作り出す技術力や品質・安全管理体制、社員教育状況等を見聞きし、地域経済をリードし社会貢献を果たす姿勢に感銘を受けた。さらに、三菱重工業㈱長崎造船所史料館を視察し、造船所の歴史と日本の近代化に果たした役割を学び、世界遺産を活かした観光振興について理解を深めた。

協和機電工業（株）で日本各地に提供する
水処理機器について説明を受ける

農村青年幹部分団は、全国でも農業の従事比率が高く、重要な基幹産業と位置づけている長崎県の農業振興について学んだ。長崎県農林部から説明を受け、平坦地が少ない厳しい地理的条件を創意工夫によって克服し、多種多様な農業を展開している現況、その特長や課題を理解した。続いて、その好事例として諫早市にて 2 つの農場を視察。飯盛有喜地区では基盤整備された段々畑を眺望しながら、所得向上や後継者確保などの成果を上げた営農状況が紹介された。諫早湾中央干拓地区では干拓地造成の目的や灌漑の機能について学んだ後、広大な農地をバスで一周しながら営農の特長である環境保全型農業についても理解を深めた。就農者の高齢化や人材確保など、共通の課題からも有意義な示唆を得た。

基盤整備された農地を一望（諫早市飯盛有喜地区）

そのほか、東京では皇居二重橋、長崎では雲仙岳災害記念館がまだすドーム、出島、グラバー園の視察・参観を通じ、日本の文化・歴史・環境・防災について触れた。

団員からは「日本人が私たちに向けてくれた微笑み、礼儀正しさといった真心や善意によって、言葉以上の交流が図れることが分かった」「日本の近代化に大きな役割を果たした長崎の輝かしい歴史、環境を保護しながら自社を発展させようとする企業の思い、細かなデータ分析を駆使した説明などを通じて、日本の匠の精神を学んだ。帰国後は、この精神を自ら実践したい」「ブリーフに加え農場視察を通じ、美しい自然にじかに触れながら日本の農業振興や発展について理解を深めた。帰国後は、各々の農村の実情に合わせ、長崎で新たに学んだ直売所の機能や就農者の所得向上策を着実に実践したい。実践なくして真意は得られない」等の感想が聞かれた。

両団ともに、5 日間のさまざまな活動を通じて、団員は日本に対する理解を深め、今後は各専門分野で日中の懸け橋となってくれることが期待される。

両団の受け入れにご協力くださったご関係の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。　（総合交流部）

後楽寮 koRakuRyou 留学生通信

敦煌と後楽寮の不思議なご縁

東京藝術大学美術学部東洋美術史研究室
（外国人客員研究員）武 瓊芳

1985 年当時、日中友好協会会長であり、東京藝術大学学長の平山郁夫先生の努力の下で、敦煌研究院と東京藝術大学の人材育成のための交換留学プログラムが始まりました。

30 年以上にわたり、ほぼ毎年敦煌研究院からの訪問学者が後楽寮に入寮しています。昨年 4 月、私は 52 人目に派遣され、後楽寮生の一員になりました。とても光栄に思います。

私の研究テーマは「敦煌壁画に見られる人物の服飾と染織について」です。東京藝術大学のとても良いプラットフォームのおかげで、日本語や英語で書かれた多くの関連資料を閲覧することができます。そして日本の研究者たちとの交流も進みました。彼らは、研究に関する資料の収集や課題追究に造詣が深く、これにはとても感服しました。

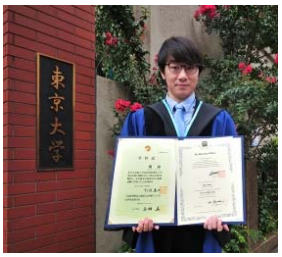
普段の生活では、一般的な日本の民衆と出会う機会もあり、距離は離れていますが、私の中でますます敦煌に対する理解や愛情が深まっているのを感じます。

日中友好会館本館に飾られている敦煌壁画の模写を見ると、莫高窟のことを思い出します。これは故郷を懐かしみ、感傷に浸るのではありません。先人への感謝の気持ちと、私も努力して前へ進もうという元気が湧いてくるのです。

最後に敦煌と後楽寮のご縁、中日の友情が末永く続きますようお祈りします。

日本の街づくりから学びたい

東京大学大学院博士課程
（工学系研究科都市工学専攻）周 詳



留学してもうすぐ 3 年、日本の伝統文化と都市の姿にますます惹かれています。私は歴史街区の保護と発展に関心があり、都市発展の歴史と計画目標について調査研究しています。博士論文では「上海石庫門コミュニティの保護と発展」に取り組み、特に歴史文化の保護と地域社会の発展問題に言及しました。

2020 年の東京オリンピック開催が迫り、民官産学の連携で「東京文化資源区構想」が提起され、これにはとても興味を持っています。東京都内の各地域を特色ごとに異なる文化資源区に分け、これを生かしたプロジェクトを進めていくものです。地域社会の参画と文化振興が見込まれ、街の発展には大変有意義でしょう。

これは私の博士論文で扱った「上海歴史文化風貌保護区」を連想させてくれます。歴史的都市の伝統的景観を保存する点では東京と共通する施策ですが、こちらの実施手法は全く異なります。中国は政府主導のトップダウン式であるのに対し、日本では地域社会が積極的に参与するボトムアップ式です。

日本では近年、民官産学連携での都市開発が進められていますが、この 3 年間の留学で一番の収穫は、この地域社会からの能動的な取り組みです。自らの街を自らの手で創り描くこの手法は、私にとってとても新鮮なものでした。

ほんの一つの例に過ぎませんが、中国は努力しながら学習しています。今回の経験を本国へ持ち帰り、ぜひ活かしていきたいと思います。

（2018 年 9 月帰国）

会館行事と人の動き　11/1～30

● 会館行事

11/ 1▸後楽会気功・中国画教室
11/ 2～11/ 7▸貸美術館催事「『藝雅景宜』佛山市石景宜劉紫英伉儷文化芸術館蔵書法作品展」
11/ 6～11/14▸「JENESYS2018」中国高校生訪日団第 2 陣　来日（11/7 同団歓迎会）※他団体実施
11/10▸後楽寮体育大会
11/11▸主催・海外展「第二回日本工芸展 in 景徳鎮　九谷焼 2018」閉幕
（於：景徳鎮中国陶磁博物館）
11/12～11/16▸「JENESYS2018」中国青年代表団　来日（11/12 同団歓迎会、11/15 歓送報告会）
11/12～11/16▸「JENESYS2018」第二十三回中国教育関係者代表団　来日
（11/12 同団歓迎会、11/15 歓送報告会）
11/12～11/18▸貸美術館催事「第二十一回 国際水墨画交流展」
11/15▸後楽会気功・中国画教室
11/15～11/25▸主催・海外展「第二回日本工芸展 in 景徳鎮　九谷焼 2018～上海巡回展～」
（於：上海工芸美術博物館、11/15 開幕式）
11/18▸後楽寮生紅葉狩り（於：新宿御苑）
11/20～11/28▸「JENESYS2018」アジア国際子ども映画祭 2018 参加訪日団　来日
（11/27 同団報告会、歓送会）
11/24▸第 6 回日中友好岸関子賞　最終選考会
11/25～12/ 1▸「日中植林・植樹国際連帯事業」日中大学生五百人交流団　来日
11/28▸後楽会会員総会（もみじの会　於：豫園）
11/29～12/ 3▸貸美術館催事「処凡伝統文人書画大展」
11/30▸日中平和友好条約締結 40 周年記念　日中大学生交流式典・夕食交流会

● 来館・訪問・面会

11/14～11/16▸佐藤常務理事　中国出張
（上海、11/15「第二回日本工芸展 in 景徳鎮　九谷焼 2018～上海巡回展～」開幕式出席）
11/29▸東京都生活文化局都民生活部地域活動推進課 青木理絵主任、東京都太田記念館 大西一郎氏
来館（留学生事業部）

● 行事参加、その他の活動

11/17▸東京ドーム宇宙博物館「TeNQ」見学会（後楽寮生）
11/18▸東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会（後楽寮生）
11/19▸神奈川県藤沢市視察体験学習（後楽寮生、武田顧問、留学生事業部）
11/25▸大田区裏千家懇親茶会（後楽寮生）

寄附のお願い

後楽寮運営に対するご寄附によるご支援をお願い致します。

◇目的

当公益財団が運営する後楽寮は、中国人留学生、研究者の寄宿舎であり、1985 年に建設されました。約 4 千名の寮生 OB は中国各地及び日本で活躍し、両国の相互理解促進と安定した関係構築に大きな貢献をしております。彼らの留学生活を支援し、日中の架け橋となる人材を養成します。

◇寄附金の使途

(1)寮生の生活環境の整備
(2)寮生の対外交流活動支援
(3)寮生自治活動支援
(4)後楽寮生 OB 会活動支援
(5)その他必要な支援

◇寄附の方法

下記口座宛、銀行振込でお願い致します。

三菱 UFJ 銀行　神楽坂支店（店番 052）　普通預金
口座番号　００９１５７０　　口座名　公益財団法人日中友好会館 理事長 荒井克之

＊振込手数料は当方で負担いたします。払込取扱票を送付いたしますので、ご連絡ください。

寄付額　個人の場合　一口　1 万円
　　法人の場合　一口　10 万円

当公益財団は、所得税法施行令第 217 条第 1 項第 3 号及び法人税法施行令第 77 条第 1 項第 3 号に掲げる公益財団法人であり、寄附は、税法上の控除対象になります。領収書を発行致しますので、寄附者のお名前、ご住所等をご連絡下さい。

【照会先】公益財団法人日中友好会館 総務財務部　電話：03-3811-5317　FAX：03-3811-5263
【留学生寮に関するお問合せ】留学生事業部　電話：03-3814-1261　FAX：03-3814-8383
E-mail：houleliao@jcfc.or.jp

2019 年 1 月 1 日発行　第 355 号
発行　公益財団法人 **日中友好会館**
〒112-0004　東京都文京区後楽 1 丁目 5 番 3 号
電話(03)3811-5317　FAX(03)3811-5263
http://www.jcfc.or.jp/